

# 第26回子ども虐待防止シンポジウム 児童の権利に関する条約批准30周年に考える 『子どものアドボカシー』とは？

社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団助成事業

2024年12月21日(土)：学術集会〔逐次通訳付き〕

12月22日(日)：パネル・ディスカッション〔同時通訳付き〕



【会場】ラジオ日本クリエイティブ会議室

神奈川県横浜市中区長者町5丁目85番地 三井横浜ビル 3F

ZOOMによるオンライン参加あり



## ＜海外招聘講師＞

Bragi Guðbrandsson氏：国際連合 子どもの権利委員会  
副委員長

## ＜日本人講師＞

大谷 美紀子氏：国際連合 子どもの権利委員会 委員  
(前委員長)

安孫子 健輔氏：全国子どもアドボカシー協議会 事務局長

毎原 敏郎氏：兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科

守谷 充司氏：仙台市立病院 小児科 兼 救命救急センター

本山 景一氏：茨城県立こども病院 救急集中治療科

## ＜司会・座長＞

山田 不二子：認定NPO法人 チャイルドファースト  
ジャパン 理事長

今回、海外招聘講師としてお招きするブラギ・グズブランドソン氏は、現在、国連で子どもの権利委員会 副委員長をお務めです。グズブランドソン氏は、1998年にアイスランドの「バーナフス」(Barna=子ども、Hus=家)を設立した創設者であり、子ども虐待に対応するための子どもにやさしい多機関連携チーム・アプローチの推進者です。さらには、ヨーロッパ諸国でバーナフス・モデルを実施する「プロミス・プロジェクト」の創設メンバーでもあります。この「プロミス・プロジェクト」では「バーナフス」を「子どもにやさしい施設」と定義しています。「子どもにやさしい施設」とは「児童相談所・警察・検察・医療・精神保健(セラピー)の専門家が連携して、子どもの状況を協働して評価し、その後の対応を決定するために「ひとつの屋根の下に多機関連携チーム(Multidisciplinary Team: MDT)が集う子どものための施設」であり、ヨーロッパ型の子どもの権利擁護センター(Children's Advocacy Center: CAC)です。



北米のCACはNPO型が7割を占め、行政設置は3割程度ですが、ヨーロッパのBarnahusは7割が行政設置と言われています。さて、日本のCACはどういうモデルがよいでしょう？

【参加費】 一般 15,400円 税込

会員 13,200円 税込

学生 5,500円 税込

※ 大学院生・研究生・有職学生は一般扱いとなります  
ので、学生料金ではご参加いただけません。



ホームページからお申込みください。  
<https://symposium.childfirst.or.jp/>  
お申込みを自己都合でキャンセルされた場合、  
ご入金いただいた参加費はご返金できません  
ので、予め、ご了承ください。



もう一人の基調講演者 大谷 美紀子氏は、1987年に上智大学法学部卒業後、同年の司法試験に合格。1990年に弁護士登録。1999年、コロンビア大学大学院 修士課程修了後、帰国して大谷法律事務所を設立。2003年、東京大学 法学政治学学術研究科 修士課程修了。2020年、青山学院大学より博士号(法学)を取得。2017年、大谷&パートナーズ法律事務所を設立。2016年には国際連合 子どもの権利委員会 委員に当選し、2021年から2023年5月まで委員長に就任。

今回のテーマは「『子どものアドボカシー』とは？」ですが、その中でも特に、「CAC」と「子どもの意見表明権」を取り上げます。大谷 美紀子氏は「子どもの意見表明権」について次のように述べておられます。「意見表明権は単に『考えを言っていよ』というだけでなく、いくつか大切なプロセスがある。まず意見を聞く意味や『何』を聞くのか、子どもが判断するために必要な情報を、本人にわかる言葉で説明すること。そうしないと、本人も発言のしようがない。その意見を大人は最大限に取り入れられないといけないが、全てが望み通りになるわけではないことも事前に伝える。意見が結果的にどう取り入れられたのか、反映されなければなぜなのかも、きちんと本人にフィードバックすべきだ。」

# プログラム

一日目：2024年12月21日(土)【学術集会：逐次通訳付き】

| 時間          | 次第・テーマ  | 講師  |
|-------------|---|---|
| 9:30～       | 受付  |   |
| 10:00～10:10 | 開会のあいさつ   | 山田 不二子<br>認定 NPO 法人チャイルドファーストジャパン(CFJ)<br>理事長     |
| 10:10～12:30 | 基調講演1<br>「ヨーロッパ型子どもの権利擁護センター(CAC)<br>としての Barnahus コンセプト」   | Bragi Guðbrandsson 氏<br>国際連合 子どもの権利委員会 副委員長       |
| 12:30～13:30 | 昼休み   |   |
| 13:30～14:30 | 基調講演2<br>「国際連合が目指す『子どもの権利擁護』および<br>『子どもコミッショナー』とは？」   | 大谷 美紀子氏<br>国際連合 子どもの権利委員会 委員(前委員長)<br>弁護士         |
| 14:30～15:00 | 「こども家庭庁が推進する<br>子どもの意見表明等支援事業」  | 安孫子 健輔氏<br>NPO 法人全国子どもアドボカシー協議会 事務局長<br>弁護士、社会福祉士 |
| 15:00～15:20 | 休憩  |   |
| 15:20～15:40 | 「CACを目指して<br>～兵庫県立尼崎総合医療センターの取組み～」  | 毎原 敏郎氏<br>兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科長                     |
| 15:40～16:00 | 「CACを目指して<br>～仙台市立病院の取組み～」  | 守谷 充司氏<br>仙台市立病院 小児科 医長 兼<br>救命救急センター 救急科 医長      |
| 16:00～16:20 | 「CACを目指して<br>～茨城県立こども病院の取組み～」   | 本山 景一氏<br>茨城県立こども病院 総合診療部 副部長 兼<br>救急集中治療科 医長     |
| 16:20～16:50 | 「チャイルドファーストジャパン『虐待相談かながわ』<br>『子どもの権利擁護センターかながわ』<br>『子どものこころとからだのクリニック CAC かながわ』<br>3事業が協働して取組む子どもの権利擁護」 | 山田 不二子<br>CFJ 理事長                                 |
| 16:50～17:00 | 事務連絡  |   |

二日目：2024年12月22日(日)【パネル・ディスカッション：同時通訳付き】

| 時間          | 次第・テーマ   | パネリスト  |
|-------------|--|--|
| 10:00～12:30 | 「子どものアドボカシーとは？<br>～子どもの意見表明等支援や子ども虐待対応に<br>おける子どもコミッショナーの役割～」<br>座長：山田 不二子 | Bragi Guðbrandsson 氏<br>大谷 美紀子氏<br>安孫子 健輔氏<br>毎原 敏郎氏<br>守谷 充司氏 |
| 12:30～14:00 | 昼休み  |  |
| 14:00～16:30 | 「日本にCACを普及させるには？」<br>座長：山田 不二子   | 本山 景一氏   |

※ 12月21日(土) 午後5時30分より、Bragi Guðbrandsson 氏と大谷 美紀子氏を囲んで懇親会を開催します。  
参加には別料金が必要です。



会場：ラジオ日本会議室〔定員 144 名〕  
(横浜市中区長者町5-85 三共横浜ビル 3階)

- ・JR 関内駅 北口 徒歩 5 分
- ・横浜市営地下鉄 伊勢佐木長者町駅 3 番出口 徒歩 1 分
- ・京浜急行 日ノ出町駅 徒歩 6 分

お問合せ

認定 NPO 法人チャイルドファーストジャパン事務局  
〒259-1132

神奈川県伊勢原市桜台 1 丁目 5 番 31 号

チェリーヒルズ金田 2 階 B 号室

TEL : 0463-90-2715 FAX : 0463-90-2716

E-mail : info@symposium.childfirst.or.jp